



山 紫

やまむらさき



春はそこまで。

《5つのいっぱい運動》あいさついっぱい、花いっぱい、歌いっぱい、読書いっぱい、運動いっぱい



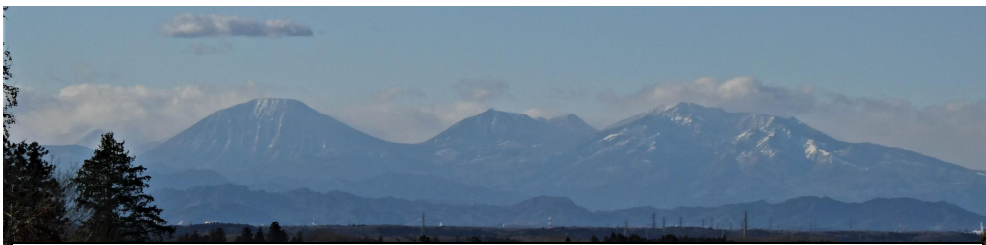
【1年間、ありがとうございました。】

早いもので、令和5年度最後の月となりました。今年度はコロナウイルスがインフルエンザと同等の5類に引き下げられ、多くの学校行事や授業参観・学年懇談会などが再開できました。これまでの数年間、新しい生活様式に沿った我慢の日々が続いていましたが、ようやくコロナ禍前の生活に戻ることができた1年間であったような感じがします。その上で、今年度の益子小学校の教育活動が滞りなく行うことができていたのは、保護者の皆様及び地域の皆様に支えられてきたからこそと、職員一同、深く感謝しています。

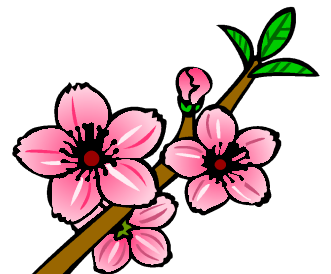
6年生は、間もなく本校を卒業していきます。1年生から5年生までは1学年進級します。不思議なものでこの時期になると6年生は何とも凜々しくなり、5年生はとてもたくましくなります。その他の学年もそれぞれお兄さんお姉さんの顔つきになってきます。そんな子どもたちの姿や表情、あるいは言動を見ていると、今年1年どの子どもも皆、その子なりに一生懸命、毎日を過ごしてきたということが分かります。ですから、学校でも御家庭でも、そうしたことを認め、励ますことのできるような年度末を迎えることができると考えております。春休み明けに子どもたち一人一人が、新たな気持ちで元気に新年度を迎えてくれることを心から期待しております。

最後に、保護者・地域の皆様には、この1年間、本校教育活動に多大なる御理解とお力添えをいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

「大変お世話になりました。ありがとうございました。」



益子小から望む男体山、大真名子山、小真名子山、女峰山（左から）



【大谷翔平選手寄贈のグローブ お披露目会】

先日の保護者会でも保護者の皆様に見ていただいた大谷選手寄贈のグローブ。今日は、改めて全校の子どもたちに見てもらおう会を開催しました。



体育委員会の5・6年生が中心となって計画しました。最初に大谷選手のメッセージを代表の6年生が読み上げ、その後野球部の6年生でキャッチボールを実演。最後に代表の5年生の声に合わせて、大谷選手へ感謝の言葉を贈りました。

【6年生を送る会 ～ありがとうの思いが、子どもたちをつなげるバトン～】

2月27日(火)に「6年生を送る会」が開催されました。もちろん会の主役は、最高学年として色々な場面で全校のリーダーを務めてきた6年生です。

5年生の代表のあいさつの後、縦割り班ごとに作った色紙を、班の1・2年生が6年生にプレゼントし「今までありがとう」という感謝の気持ちを伝えました。

セレモニーの後には、ミュージカル団体「夢団」によるミュージカル「オズの魔法使い」を鑑賞しました。楽しいミュージカルで、6年生も在校生も、思い出に残る会になりました。

さて、この会を開催するに当たり、5年生が中心となって計画・準備・運営を担当しました。つまり益子小学校のリーダーとしての役割は、「6年生を送る会」から5年生に引継がれることになるのです。今年も5年生がみんな協力し、準備段階から当日の運営・後片付けまでを行っている様子を見て確信しました。「来年も益子小学校は大丈夫。やはり伝統はしっかりと引き継がれている」と。益子小を巣立っていく6年生が日々リーダーシップを発揮している姿から、5年生はしっかり学んでいたのです。

「6年生、ご卒業おめでとうございます。バトンは引き継ぎました。あとは私たちに任せてください。今まで、ありがとうございました。」



6年生を送る会、



3/7（火）、6年生を送る会がありました。6年生を送る会のセレモニーの後に、「ミュージカル 不思議の国のアリス」を鑑賞しました。事前の会場準備やセレモニーの練習、そして当日の運営などは全て5年生が中心となって行ってくれました。在校生全員がお世話になった6年生へ感謝の気持ちを抱いて参加した、とてもあたたかな会になりました。

6年生を送る会、

..... 6年生を送る会 ～はばたけ6年生！愛をこめて感謝の気持ちを～、2月17日（金）に6年生を送る会が、行われました。全員合唱で歌った「ひまわ、りの約束」の中に「♪そばにいたいよ君、のためにできることが 僕にあるかな」と、いう歌詞があります。それぞれの学年が、君（6年生）のためにできることを精一杯、やることで、スローガンにもなっている、「愛をこめて感謝の気持ちを」十分に伝え、ることができていました。寒い会場でした、が、心だけはほっこりと温まる会になりました。さあ、本当のお別れまであと少しになり、ました。「♪旅立ちの日 手を振る時 笑顔でいられるように」がんばっていきましょう。

今後も、次年度に向け、子どもたちが夢と希望をもつことができるよう、努力してまいります。